

発刊によせて —メッセージ—

国際協同組合同盟（ICA） 会長 モニク・ルルー

国際協同組合同盟（International Co-operative Alliance/ICA）を代表して、日本労働者協同組合連合会と組合員のみなさまの三五年に及ぶ達成を心よりお祝い申し上げます。

貴会は、その歴史を通じて、労働者協同組合という共同体を支えるために多くのことを成し遂げてくださいました。協同組合の価値と原則に則って、共同の富や連帯、社会正義、経済的公平、民主的ガバナンスなどを創り出すことにより活動を続けてきました。

協同組合は持続可能で、公正かつ参加型の社会を実現する手段となる世界有数の革新的モデルです。協同組合は、およそ二世紀にわたり幾度となく、人々の生活の質と尊厳をより良いものにするために役立ってきました。かくして協同組合運動は、持続可能な開発における正当かつ信頼に足る変革の主体として、国際的な尊敬を得てきたのです。

それはまた、今日の協同組合運動が以前にも増して未来への責務を担っていると、私が強く信じる理由でもあります。現在のさまざまな危機の集中と、その悪しき複合的な影響（失業、戦争、貧困、低開

発、独裁など）を解決するためには、包括的なアプローチが必要であるというのが私の持論です。

そして協同組合は、地域社会にしっかりと根づいているからこそ、したがって現実の経済と市民に寄り添っているからこそ、経済・社会・環境などのシステムのバランスを保つ統合的かつ包摂的なアプローチを提示することができます。その本質からして協同組合が、成長と持続可能な開発とともに実現する重要な担い手であることは明らかです。

誤解を恐れずに言えば、協同組合の経験は、各国政府や国際機関が見做すべき基準を示していると言

うこともできるでしょう。協同組合は、日々世界の間で、人々が直面している問題に具体的な解決策を与えているからです。

世界の全ての協同組合人は、協同組合の事業にある種の魅力があることを熟知しています。それは樂觀論、情熱、決意、創造性、想像力、発明力、イノベーション、粘り強さなどをあわせ持っているからです。そして、協同組合の事業は連帯すること、公益に奉仕することを学ぶ方法でもあります。

私たちの協同組合運動が民衆の力を示す明白な証だとするならば、それは何よりも、自らの運命を自らで決めたいと願う人々の生き方を表しています。

組合員のみなさまが、個人としても団体としても、感動を呼び起こす貴会の歴史的新生を享受することを願っております。

みなさまに重ねて心よりお祝い申し上げます。

産業労働者・熟練工業者・サービス生産者協同組合国際機構（CICOPA）

事務局長 ブルーノ・ローラン

出されます。

貴会が一九八〇年代末にCICOPAに、また一九九二年に国際協同組合同盟（ICA）に加盟した当時、貴会はCICOPAのアジア唯一の加盟団体であり、アジア太平洋地域における国際労働者協同

組合運動のバイオニアでした。それ以来、貴会は地域的かつ国際的レベルにおいて、常にCICOPAの中心的存在であり続けています。

とりわけ貴会が、国際労働機関（ILO）の第九回総会（二〇〇一年）と第九〇回総会（二〇〇二年）に世界の協同組合人とともに出席し、世界各国の政府がICAの協同組合原則を初めて正式に承認した「協同組合の促進に関する勧告」（第一九三号勧告）に関する議論に参加したことを思い出します。

その際、他の協同組合が政府や使用者のグループに属していたのに対し、貴会が労働者のグループに属していたことは、日本の労働者協同組合運動が労働組合に起源を持つことの証であり、また国際レベル

で労働組合運動とより連携していく必要があるCICOPAにとっても重要な意義を持つものでした。

最後に、貴会の「協同労働」という理念に称賛の意を表します。この「協同労働」の取組みは、貴会も積極的に関与して二〇〇五年に採択され、ブラジルやカリフォルニア州（アメリカ）における労働者協同組合法の制定にも影響を与えた、CICOPAの「労働者協同組合宣言」と共鳴し合っています。

私たちは現在、CICOPAのアジア太平洋支部の発展に努めており、貴会が中心的な役割を果たすことを確信しています。その意味でも、貴会と日本の労働者協同組合運動の末永いご発展を心よりお祈りいたします。

国際労働機関（ILO）駐日事務所 代表 田口晶子

「みんなで歩んだよい仕事・協同労働への道、そしてその先へーワーカーズコップ三五年の軌跡」のご刊行、おめでとうございます。貴会のみなさまの長年にわたるご尽力と地道な活動に対し、心より敬意を表します。

ILOは、「世界の永続する平和は、社会正義を基礎としてのみ確立することができる」という信念を実現するために、第一次世界大戦後の一九一九年に創設され、二〇一九年に一〇〇周年を迎えます。

ILOは、労働における協同組合が果たす役割を重

要視し、創設翌年の一九二〇年に協同組合部を組織内に設置して、現在でも重要な機能を担わせるとともに、国連内で協同組合全般を担当する専門機関となりました。二〇〇二年に協同組合促進勧告（第一九三号）も採択しました。

労働者協同組合をはじめとする協同組合の価値、原則―つまり自助、民主主義、平等、公正、連帯、また誠実、オープンであること、社会的責任、他者とコミュニティへの配慮―は、ILOが推進するディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）

（事）実現の精神と一致しています。

ディーセント・ワークの四つの目標―つまり雇用の創出、社会的保護の拡充、社会対話の推進、仕事における権利の保障―において、ILOは特に「雇用の創出」に関し、全ての人が社会の一員として働くことができるような包摂的な社会を創っていくことをめざし、人々が自ら起業して働く場をつくり出す労働者協同組合を高く評価しています。とりわけ、通常の働き方がむずかしい人々の就労や、災害などの危機的な状況における協同組合活動の成果には目を見張るものがあります。フィリピンのハイエン台風後のILO復興支援活動において、ワーカーズコップが東日本大震災で培った経験と知見を共有いただき、またアフリカ協同組合リーダーの研修受け入れ事業にも毎年ご協力いただいております。みなさまの国境を越えた真の連帯の精神に対し、あらためて感謝申し上げます。

二〇一五年、国連は二〇三〇年までに達成すべき「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals/SDGs）」を採択しました。その目標八は、「包摂的かつ持続可能な経済成長及び生産的な完全雇用とディーセント・ワークを全ての人に推進すること」をめざしており、持続可能な開発の達成に向けたディーセント・ワークの重要性を示しています。世界では、二〇三〇年までに六億以上の新たな雇用を創り出す必要があります。働いても十分な収

入が得られないため、一日二ドルで暮らすことを余儀なくされている七億八千万人もの人々の生活を向上させる必要があります。

協同組合は新しいコンセプトではありませんが、ILOが模索する「仕事の未来」(Future of Work)を考えると、その役割は重要性を増しているように思います。ワーカーズコープのような協同組合は倫理的な組織として、働く人々の権利、社会正義、持続可能な成長に大きく貢献し、人たるに値する仕事づくりの推進において、ILOにとって欠くことのできない大切なパートナーです。ILOは、ディ

日本協同組合連絡協議会 (JJCC) 委員長 奥野長衛

「みんなで歩んだよい仕事・協同労働への道、そしてその先へ」ワーカーズコープ三五年の軌跡」のご刊行、誠にありがとうございます。日本協同組合連絡協議会(JJCC: Japan Joint Committee of Co-operatives)を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

一九七九年に中高年雇用・福祉事業団全国協議会として設立されて以来、貴会は会員組織とともに、生活と地域の必要や困難に正面から向き合い、そこから切実に求められる仕事を自らの仕事として作り出し、担ってこられました。

生活と地域の課題を解決する仕事をゼロからつくり出すこと、それを全人格的な関わりを必要とする

ーセント・ワークを全ての人が享受できるように努力を続けるとともに、ワーカーズコープ、また日本における協同組合活動全般を通じてディーセント・ワークが一層普及していくことを強く期待しております。

最後に、日本労働者協同組合連合会のみならずめざされる、働く者や市民が持てる力を発揮して新しい社会を創造していく活動が裾野を広げ、ますます大きな成果を上げられることを心より期待申し上げます。私からのメッセージとさせていただきます。

「仕事」の場での協同として実現していくこと、さらにそれを現代社会のなかで持続させていくこと。

この重要な、しかし幾重にも困難な取組みを貴会と会員組織が継続してこられたことに、JJCCを代表して深く敬意を表するとともに、JJCCが一九九九年に貴会を協同組合の仲間として迎え、共に歩んでこられたことを誇りに思います。

貧困や格差、地方の活力低下などが問題となる現在の日本で、孤立すなわち人と人との関係の希薄化が問題を一層深刻化させています。そうしたなかで、地域に根ざし人に基盤を置く協同組合は、それぞれの事業や活動を通じて、地域社会づくり、より具体

的には助け合いや協同による人と人との関係の再構築に取り組んでいます。

こうした取組みは、地域に根ざした協同組合が連携・協同し、それぞれ蓄積してきた経験・知見・ネットワークなどのさまざまな資源を生かし合うことによつて、一層有効なものとなります。この意味でも、貴会と会員組織が三五年の長きにわたり真摯に取り組んでこられた経験と蓄積は、日本の協同組合運動にとつての宝として広く共有していくべきものと言えます。

JJCCも、各地域・都道府県・全国段階における協同組合間連携を一層進めていくために、より強い連携組織へと発展することをめざして検討を進めています。日本の協同組合運動が、協同組合間の連携・協同を一層強めていくことにより発展を展望するなか、貴会と会員組織が着実に発展していけること、そして協同組合間連携に力を発揮していただくことは、日本の協同組合運動にとつて欠くことができないと考えています。

貴会と会員組織のますますのご発展を祈念し、また各地域・都道府県・全国段階での協同組合間連携における貴会の多大なるご協力をお願いするとともに、今後もJJCCの仲間としてより良い社会づくりに向けてともに歩んでいくことを楽しみにしつつ、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。